

聖火に特別な思い ボランティアや市民と共に準備

羽村市職員の笹本弘子さん



「皆様の気持ちと一緒につないだ」と 笹本さん

紆余曲折を経て大会を終えた2020東京オリンピック。東京に緊急事態宣言が出る中での異例の大会となったが、選手達の奮闘は幕を閉じれば多くの感動を残した。元カヌー競技オリンピック選手で羽村市職員の笹本弘子さんは、2018年にオリ

当となり、380人のボランティアや市民の皆さんと2020年東京オリンピックの成功に向け共に楽しみたと思っ

陸上人生の夢を馳せ



「青春時代はオリンピックへの夢を燃やした」市川さん

前青梅市陸上競技協会長の市川治郎さん
選手をはじめ車椅子ラグビーの池透暢選手や池崎大輔選手などオリンピックやパラリンピックの事前事業で講演や交流会で招いた様々な競技の選手にテレビの前で声援を送りました。市川さんは聖火リレーの公募枠選出者になった通知を受け、「陸上人生の思いを込めて走りたい」と楽しみにしていた。中学、高校で陸上に打ち込んだ。放送陸上の1500円で全国1位に輝いた。インター

ハイでは5000円で決勝に進出した。卒業後は実業団入り。小森コーポレーションの練習の中でオリンピック出場への夢を燃やした。夢は叶わなかったが、青春時代の宝物になった。「アテネの火が全国を回り青梅に来たかと思うと感動した。記念になった。男子1000に期待したが、壁は厚かった。でも楽しみました」と忘れられない夏を惜しんでいる。

父子鷹、文教に賭けた志

新型コロナウイルスの感染拡大で2年ぶりの開催となった全国高校野球。東海大菅生高校野球部は、春の選抜出場に続いて、今夏の西東京大会も勝ち抜き、甲子園への切符を掴んだ。1996年の初出場以来、8度目の快挙である。父は開校訓のひとつに「無限」を掲げた。甲子園での健闘は、野球部員たちの限らない可能性を信じ切った成果にほかならない。現在の菅生学園理事長である島田幸成氏がこう話す背景には久氏と松前重義氏との出会いがある。

東海大菅生高校 島田幸成氏



松前氏のうしろ姿を追わせる原点かもしれない。

「甲子園は本校の創立者で初代理事長でもあった父・久の最初からの夢だった。83年、秋川市(現在は国際交流に取組む生き方に共鳴した久氏は松前氏に私淑する。東海大学創設者、衆議院議員として、教育と政治の分野で活躍。戦時中、反軍部の立場で行動。戦後は

り合い、30歳のころ、湘南キャンパスで『現代文明論』の講義を聞いたという。技術と精神の融合を説く見識への感銘はやがて、菅生高校の設立、代議士当選につながっていく。その幸成氏、この秋には東京25区から衆議院選挙に初挑戦する。めざすのは、住民に寄り添う「ま



「羽村生まれの父は青梅農林を卒業すると、政治への志を胸に日本社会党本部に書記として就職。そこで松前先生と知

つとうな政治」。久氏の温厚な遺影が見つめる執務室で強い決意を示した。【岡村繁雄】

東京25区管内の政治・行政、経済、社会、トピックス